

## 【視察調査報告書】

会 派 名	日本共産党八王子市議会議員団
参 加 議 員	鈴木勇次、石井宏和、市川克宏、望月翔平、綿林夕夏 以上5名
日 程	令和5年(2023年)7月4日(火)～7月6日(木)
詳 細	
視察日及び視察先	7月6日(木) 北海道 網走市
視 察 内 容	学校支援地域本部事業について
概 要	<p>網走市では学校支援地域本部を構築することで、先生をはじめ子どもたち、地域の方々と学校を核とした地域全体の活性化などに効果をあげています。</p> <p>学校支援地域本部は地域コーディネーターがボランティア登録している方を学校からの依頼に応じて、派遣する体制をとっています。個人、学生など238名の登録者が学習支援などボランティアに取り組み、学校を支え、児童生徒の成長、学習にたずさわり、先生の過重負担を解消し、地域と学校とが一体に支えあい、地域社会の形成に寄与しています。</p>
所 感 等  (意見・課題・ 本市への反映など)	<p>学校は町会や経験者など、学校を支えたいという熱意の方々を支えられている。本市は、学校を支える人材確保に登録バンク制度を設け、地域が学校を支える取り組みとして放課後子ども教室や学習支援などのボランティアに取り組んでいる。</p> <p>花壇や樹木など環境整備や登下校の見守り、ゲストティーチャーなど無資格のボランティアなどの人材は確保しやすいが、スクールカウンセラーなど有資格者(専門職)の確保が難しい状況である。また本市は約100校をこえる小中学校があるが、地域によって人材の厚みにアンバランスがある状況でもある。学校間の体制のバランスをどう整えているのか、今後の課題でもある。</p> <p>市民が学校を支え地域との連携をはかる学校支援活動の大切さを視察を通じて再認識したところである。特に支援事業を通じてこどもの不登校対策や先生の負担解消に寄与していく大きな可能性も感じた。なによりも本事業によって、子どもの成長をはかり、地域の方々が子どものために協力したいという気持ちを大事にしていくことは、やがて子供たちが大人になって生まれ育った地元地域で暮らしていくことに、つながっていくことにもなると感じた。</p>
視察の様子	
2 ページ目に載せます。	

視察日及び視察先	7月6日(木) 北海道 網走市
視察内容	子育て世帯の給食費無償化について
概要	北海道では37の自治体(道内の約20.7% 2022年12月時点)が小中学校とともに給食の無償化を実施しています。網走市は、今年4月から小中学校ならびに幼稚園、保育園の給食無償化を開始しました。市の人口は約33,000人と都内では瑞穂町と同じくらいの人口規模です。小学校9校と中学校6校の2176名の児童生徒を対象とし事業費は約1.3億円を計上し、その財源はふるさと納税による基金繰入金です。網市の担当者は、実施に踏み切った1つの要因に物価高騰の問題を指摘していました。
所感等 (意見・課題・本市への反映など)	<p>網走市では、毎年の財源確保に視察に訪れる方々から財源の確保について問われることが多いという。仮に基金が枯渇しても市の財政でおこなうという市の強い決意のもと実施していくとの話しを伺った。網走市で無償化が実現したのは、国内のコロナ禍をはじめ物価高騰という要因とともに、子育て世帯への支援として給食費無償といった市民の世論と運動が実現へと動き出した力だったと視察を通じて感じた。その声をうけて議会をはじめとした質疑、昨年11月の市長選挙の公約に掲げざるを得ないところまで発展したこと、また当局も試算を検討するなど市政を動かしたことを市の担当者の説明と質疑を通じて感じた。</p> <p>八王子市においても無償化にむけて、議会質疑にとどまらず、署名運動などを通じて市民の世論と運動を盛り上げる動きにしたいと思った。</p>
視察の様子	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>左写真：視察研修中に撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右写真：網走市議場にて撮影</p> </div> </div>	